

森林塾通信

通年コース第十七・十八回開催報告「間伐・きのこ」

『雪は消えねど春はさざしぬ』

『風はなごみて日は暖かし』と続く法政大学山岳部々歌の一節です。三寒四温、寒さは和らぎ、風の春光の春です。

さて、明日は啓蟄という一日、前日に降った雪の残る傾斜地で、今年度最後の伐木がおこなわれました。倒すのは25m近くまで伸びたカラマツ、それも結構込んでいます。今年は主に駒ケ根の平地林で15m程度の



最終回は雪上の修了試験



6年目の長老。広葉樹にはかけないで!!



ラダー2段で8mほど上に。結構高い



ウィンウィンと穴をあけ、木槌でコンコン

サクらの木の口にナメコ菌を育てる、短木の植栽方法をサメクエー

ヒノキを相手にしてきました。なのでこの修了試験ちょっと手強いぞ、という雰囲気です。さあ伐倒開始です。前回の塾でのチェンソー作業は8月だったので、半年以上間があき、勘を取り戻すには時間がかかって、ほとんどがチルホールやロープのお世話になりました。特に長老の1本目はクリの大木に引けてしまい、チルホールで引いてもびくともしません。ツルを切り離

して元を引いてもダメで、さらに動滑車で倍力牽引。これも気温が上がって、雪の溶けかかった柔らかい地面に元がめり込んでしまい失敗、最後は禁止手段でなんとか片を付けました。「いやいや、色々な技を見せていただきました。」と、長老は照れ隠し。かかり木にも『与し易し』から『伍し難し』まで、ランクが何段階かあるので、次回は長老、是非『与し易し』にしてください。

フィニッシュはなおさんがクサビできれいに決めて、最後の伐倒が終了しました。伐木造材能力評価は8月か

らアップしていたでしょう。こういった内申書的なものに「喜一憂する年齢はもう過ぎてしまっている(?)」とは思いますが、やはりランクアップすれば嬉しいものです。そして2日目、本当の最終日はキノコの菌うちでした。まずはコナラの原木にシイタケの種駒を打ち込む作業です。

この品種は菌のまわりさえ良ければ今年の秋からの発生が期待できるようです、ちょっと楽しみ、乞うご期待です。



こちらはサクラ原木木口にペタペタ

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川 清志
題字 島崎 洋路



ンソーで半分に切り、その間にオカ菌をサンドイッチにする方法で、大した道具もいらぬし、手軽にさつさと植菌が出来るし、そのうえ菌の周りも早く、お勤めです。これも同じメーカーのもので、品種は中生の『N301』というものの。今年の秋、紅葉の始まるころに出でくるようです。伊那那界隈の気候なら10月の初めころでしょうか。みそ汁、天ぷら、つくだ煮、さつと茹でて、おろし醤油で。

**通年コース第17・18回
3月3・4日(金・土)
伐木復習・きのこ菌打ち**

通年コース1年目の方の中で見事皆勤賞は澤田さんお一人でした。一年間お疲れ様でした。金曜日は休暇を取らないと出席できないのですが、早朝と塾終了後は会社に片付けていた、というお話を最終回に伺いました。本当にありがとうございました。長老の水津さんはすでに講習修了されている安全衛生教育のみの欠席ですので、実質皆勤です。青木さんは途中からのご参加で精勤賞、唐澤さんはけがなどで何回か休まれましたが、こちらも精勤、お疲れ様でした。最終回は出られませんでした。木村さんも精勤、宮下さんは夏からのご参加で、以降は全部出てくださいました。皆様、ありがとうございました。東京や神奈川県など、遠いところからの方、本当にありがとうございました。参加者/青木さん、唐澤さん、小池さん、澤田さん、水津さん、宮下さん、スタツフ/和泉、早川

ただお一人の皆勤賞。お疲れ様でした。2017年度はKOA森林塾の運営が関連会社である「㈱やまとわ」に移りま



乗鞍大雪渓

た。年間の滑走日数は、多くと

山スキーとは、文字通り、スキー場ではない「山を登って滑る」スポーツです。登りは自分の足で。シールという滑り止めをスキー板の裏側に貼り付けることで、前には進めるけど、後ろには滑らないようにします。そして、ブーツを固定する金具は、山スキー専用の物を使います。登りでは、踵をフリーな状態にでき、歩きやすくします。これらによ

先々号で紹介いただきました、浅井聡(あさいさとし)と申します。田舎暮らしの人口が加熱している昨今を鑑みて、兵庫県出身の私が、長野県にインターンをした経緯と暮らしについて紹介させていただきます。

そのような体験からか、自然と信州大学を意識するようになり、大学時代は松本市で1年、長野市で3年を過ごしました。大学入学後は勉強そっちのけでスキーに熱中しました。毎年シーズン券を購入して、毎日のように北信越のスキー場に通いました。年間の滑走日数は、多くと

折角の機会ですので、山スキーについてご紹介させていただきます。



なつたのは、20年ほど昔のことでした。兵庫県の高校に通う私は、高校2年生の冬、修学旅行で北志賀高原に4泊で訪れました。初めて体験するスキーや、真っ白な雪山、マインナス10を下回る気温など、どれも私には新鮮な体験でした。特に真っ白な雪山は、雪の積もらない地方の多くの方が魅力を感じているのではないのでしょうか。



厳冬の黒姫山を登る



り、何も道具が無ければ胸まで埋まるような深雪でも、登ることができるようになります。滑るときには、ゲレンデの道具と同様に踵を固定し、安定した滑りが楽しめます。

山スキーの魅力は大きくわけて、登りの辛さ、山頂での景色、達成感、滑走、の四つと感じています。

〜 については、それぞれ相乗効果があります。時には登り9時間なんていう苦行もあります。それ故に、山頂についた時の達成感はひとしおです。登りが辛ければ辛いほど、景色もより素晴らしく感じるようになります。辛いほど、無事に降りてきた時には、「生きてよかった」と生きることの喜びを実感できます。晴れが約束された日には、山頂でラーメンなんて

のもグッドです。

山頂を堪能した後、いよいよ山スキー最大の魅力とも言える滑走の準備です。雪崩のリスクがどの程度なのか、雪面を掘って分析し最終判断をします。もちろん登りの時にも、適宜、雪を掘り雪崩リスクの観察を実施します。最も滑りたい斜面を第一に観察しますが、日によっては雪崩リスクが高くNGとなる可能性もあります。従って、第二候補(雪崩リスクが極めて低い斜面)についても、併せて評価します。斜面の角度が変わるだけで、風や太陽光の影響が変わりリスクがガラリと変わることがあります。

滑り込む斜面決定後、シールを剥がし、ブーツを金具に固定し、順番に滑り込みます。ある者は絶叫しながら、ある者はニヤリと笑みを浮かべながら、雪崩に警戒しながらも、テンションは最高潮に。新雪を豪快に巻き上げ、時に全身にかぶりながら、フワフワの斜面を滑走する。言葉で説明するのが難しいですが、そのどれもが最高にアドレナリンを分泌させてくれます。

最高に気持ちの良い斜面は、休憩時間を含めても30分ぐらいで終了しますが、この30分で、9時間の苦行が報われます。下山して遠くから自分の滑ったラインを眺め、「次回は、あの白いところを滑ろう!」と山を後にします。

長野県周辺には、多くの山スキーエリアがあります。シーズン頭の11月には、立山で初滑走が楽しめます。12月後半から3月のハイシーズンは、北信越や白馬が最高の



滑走前、槍ヶ岳山頂をのぞむ

す。山スキーでは、誰も滑っていない、真っさらでスベスベな斜面に、思い思いのラインを刻んでいきます。格好の撮影タイムです。写真や動画は、下山後の最高の酒の肴となります。

最高に気持ちの良い斜面は、休憩時間を含めても30分ぐらいで終了しますが、この30分で、9時間の苦行が報われます。下山して遠くから自分の滑ったラインを眺め、「次回は、あの白いところを滑ろう!」と山を後にします。

長野県周辺には、多くの山スキーエリアがあります。シーズン頭の11月には、立山で初滑走が楽しめます。12月後半から3月のハイシーズンは、北信越や白馬が最高の

パウダースノーエリアとなります。毎週のように雪が降り積もるため、毎週末、誰も滑っていない真っさらな斜面を滑ることができません。春先には、パウダースノーがザラメ雪となり、雪崩リスクの高かつた急斜面や、ゲレンデではあり得ない超巨大斜面も滑走できるようになります。

4月後半には、槍ヶ岳連峰周辺、など、北アルプス南部でのロングツアーが旬を迎えます。さらに南の、乗鞍岳は厳冬期でも条件が当たれば山頂から滑れる3000m峰です。ハードルは高いですが、南アルプス・仙丈ヶ岳や北岳での山スキーも徐々に人気が出てきています。そしてあの富士山も、気温が上がる4月末から7月一週目まで人気の山スキーエリアです。このように、11月から7月まで、長野県周辺の山々で、実に1年の半分以上をスキーで過ごすことが出来ます。山スキーの大きな魅力であり、長野県に住むことの魅力の一つです。

以上山スキーの魅力について説明しましたが、山スキーにはゲレンデにはない危険があります。新雪滑走では常に、雪崩のリスクがつきまといえます。春先の、新雪が無く、気温がまだ低い時期には、斜面がアイスバーンになり滑落のリスクもあります。私は、両方の事故に遭いましたが、本当に運が良く打撲程度で済んでいます。もし運が悪ければ、と考えると...。当然ですが危険を伴うスポーツは、信頼できる仲間とやっただ方が良いです。幸い長野県には、山岳会が多くありますので、そちらに所属されるか、ガイドツアーに参加するかが良いと思います。単独行はおススメしません。

山スキーを始めると同時に、夏山登山も始めました。当初の考えは、「山スキーをやるためには、夏に山を登って山の形状を把握しないと」でした。ですが、登山を始めるとすぐに、夏山にも魅了されました。次第に山スキーに加えて冬山登山もやるようになりまし

長野県は山岳

王国とも呼ばれ、北・中・南アルプスや八ヶ岳など、標高、景色、動植物が千差万別で、登っても登っても、登り足りないほどの魅力にあふれています。なんだかんだで、年間70日程度を山で過ごすようになり、私のエターン(Uターン?)生活は、長野県の大自然に根差したものとなっていきました。

このように、長野県の自然に触れ合いながら過ごすこ



槍ヶ岳滑走



山頂でカップラーメン



とで、自然素材を使った家に魅力を感じ、薪ストーブの家を建てました。そして、薪の調達のためにチェンソーを、購入しました。

チェンソーを購入後、山を持っていく義父より「山の木を薪にするのは危険だから、しっかりプロから習うこと」とアドバイスをもらい、急いでインターネットで「チェンソー、講習会」というキーワードで検索しました。KOA森林塾が出てきました。集中コースが翌日より3日間の日程で開催されると。申し込み日は既に2週間前に過ぎていたものの、この機会を逃すと来年の夏まで無いかもしれないと思い、ダメ元で早川先生に電話をし

した。すると物腰の柔らかい口調で、二つ返事で「いいですよ」と。講習会初日の朝に早川先生に聞いてみたところ、義父が高校時代のクラスメイトというところがわかりました。物腰の柔らかさと相まって、より親近感をもちて講習会にのぞみました。

玉切りが出来ると当初は考えておりまして、チェンソーが動くたびにビクビクしていました。そんな私でも、不格好なりに伐倒まで出来るようになり、伐木造材作業が面白く感じられるようになりました。講習会の詳細は皆さまご存知です。ので割愛いたしますが、早川先生、和泉先生に丁寧に分かりやすく教えていただいたおかげです。技術習得に併せて、両先生の林業に関する四方山話を聞かせていただくにつれて、林業自体にも興味があわきました。実際に手を動かすことの面白さと、知識としての興味深さ、そんな魅力を林業に感じられました。田舎暮らしを楽しむ上で、新たな趣味となるかもしれませ

ん。また機会をつくって通年コースなど受講したいと思えます。林業への興味が抑えられず、講習会の後すぐに、主地元伊那の林業士で構成される、森の座というNPO法人に入会届を提出していただきました。NPO法人の理事長、副理事長には、それ以前にもお世話になったことがあります。新築の時の柱材70本ほどを、義父の山より切り出していたいただきました。両人は、林業を志す際に早川先生より学ばれています。そして早川先生と義父は高校時代のクラスメイトで。色んなところでつながりがありました。



長野県は本当に良いところ。ひと昔前は、買い物など都会との差は大きかったかもしれませんが、現在は、インターネット通販が発達し、クリックした翌日には商品が届きます。都会に行きたくなった時は、東京や名古屋に2〜3時間で出られます。リニアが開通すれば、さらに都会へのアクセスは容易になります。普段は大自然と穏やかな長野県人に囲まれて、ゆったりと過ごす、たま〜に都会に行く。平日は地元企業に勤め、週末は大好きな登山や山スキーに打ち込み、新割りや家庭菜園で汗を流す。夏は涼しく、冬は新割りと薪ストーブで暖かく過ごします。中央・南アルプスに囲まれながら、そんな暮らしが出来る現在となり、インターンしてよかったなあと感じています。

唐松岳より滑走
暮らしながら、来る現在となり、インターンしてよかったなあと感じています。長野県に魅力を感じている皆さん



自作薪棚のストーブ薪



家庭菜園

ま、長野県へのインターンはいかがでしょうか？思い立っ

たが吉日です!!

おわりに

今年、南信州は大変暖かく、昨年に引き続き雪の少ない冬でした。市街地での積雪は11月勤労感謝の日の翌朝に降ったくらいで、雪かきの記憶がほとんどありません。林道や近くの高原で手軽に楽しめるクロカンスキーにも行けませんでした。そんな

中、浅井さんの秀作投稿を読んで、『白銀は招くよ』を思い出しました。半世紀ほど前、NHKのみんなの歌で紹介された、軽快なテンポで日本語歌詞がすこしセンチな大好きな歌です。

この歌、もとは同じ邦題のドイツ映画の主題歌で、主演はトニー・ザイラーでした。冬季五輪史上アルペン種目で3冠を達成した人で、この偉業は後のジャン・クロード・キリーと2人だけです。後にテレビで見たこの『白銀は招くよ』という映画、筋はたわいもない恋愛映画でしたが、なんせザイラーがカッコ良すぎる。エンディングはヒロインをお姫様抱きして、片足で山を滑り降りてくる。そして主題歌まで歌っちゃってます。あの半分でも滑れたらなあ、いや無理なら十分の1でも良いんですが。さて、2016年度の最終回が終わりました。2017年度からは新機軸で始まるKOA森林塾、どうぞご期待ください!!

質 見、ご意見、ご要望は事務局まで。TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp sh-sakano@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062 (開催日) URL https://www.koaglobal.com

